

いのちいっぱい 感動いっぱい ～ ありがとうの旅を続けよう！～

みんながいてくれたから



11月9日、八幡浜市の研究大会が行われたため、子どもたちは臨時休業となりました。ただ、5・6年生は、オンライン集会、そして、音楽と体育の授業公開でしたので、2時間だけ授業を行いました。授業担当の菊池先生と山崎先生は、長い時間を掛けて、この日のために用意周到で準備を進めてきました。お二人は、愛媛県が取り組んでいるICT機器を使った最新の授業に挑戦されましたが、子どもたちは、終始意欲的に取り組み、主体的・対話的な態度でがんばってくれました。授業を見られた多くの先生方からは、「本当にすばらしい授業だった。」とお褒めの言葉をいただき、子どもたちのこの5・6年間の

成長を共に喜び合うことができました。

ところで、研究大会の午後に行われた全体会で、講師である愛媛大学平松義樹教授が、喜須来小の授業のことについて触れられ、子どもたちの表情を静止画で紹介されました。そこに映し出された喜須来っ子たちの表情は、すべて生き生きとしており、授業を見ていない先生方にも、子どもたちのがんばりが伝わってきました。

数人の児童が写真で紹介されましたが、その中に6年生のYくんがいました。この日、6年生の体育は「跳び箱」だったのですが、Yくんは、この日まで“台上前転”を跳ぶことができていなかったのだそうです。平松教授はそこに着目し、Yくんの初めて跳べた瞬間をカメラで捉えていました。Yくん本人の表情、そして、周りで支援している友だちの表情など。この時間のみんなのがんばりが、写真から生々しく伝わってきました。

次の日、私はYくんとグラウンドですれ違いました。

「Yくん、昨日の跳び箱、がんばったんだって？」

「はい。」

「台上前転は、昨日まで成功していなかったの？」

「そうです。」

「そうか、昨日までは跳べてなかったんだ。でも、なぜ、昨日は跳べたのかなあ？」

「それは… みんながいてくれたからです！」

Yくんのまさかの答えに私は驚きましたが、とても嬉しく感じました。Yくんが、自分の成功が周りの友だちのおかげだと答えてくれたことに、教育のゴールを見ることができたような気がしたのです。



大丈夫だよ

冬が近づき、徐々に寒くなってきました。子どもも大人も、朝の布団からの脱出は厳しいものがあり、毎朝自分の闘いですね。さて、子どもたちは集団登校を毎朝行っていますが、時々、お母さんと離れるのが寂しかったり、辛いことがあることが思い出されたりして、涙が出てしまうことがあります。それでも、お家の方は、「いってらっしゃい！」と、背中を温かく押して見送っていただいています。本当にありがとうございます。子どもたちにとって、その親の温かさが、また涙を誘うところではありますが、それでも、お母さんやお父さんの顔を思い浮かべながらがんばってくれています。

先日、こんなシーンを見かけました。校門に入っても、まだ涙が止まらなかった1年生。すると、6年生の女子二人が、両側からさっと手を握り、「大丈夫だよ。一緒に行こうね。」と声を掛け、玄関まで連れて行ってくれました。また、ある朝は、同じ1年生の子が、泣いている子の手をさっと取り、一緒に玄関へと向かってくれました。だれから頼まれたわけではなく、少し前へ進みづらくなっている友だちに対して、何気ない優しさを見せてくれる喜須来っ子たちの温かい行動に、心から感謝です。

「いつも、ありがとうね。」

保中愛、健在！

11月5日に行われた保内中文化祭。私もお招待をいただき、午前中の発表を見に行かせてもらいました。各学級の歌発表が楽しみでしたが、学年の発達段階こそ違うものの、それぞれの学級の色があり、声もよく出ていました。そして、全校生徒による感動の「地球星歌」合唱。聞いている私たちも嬉しくなりました。本校の卒業生たちも、指揮者や伴奏者としても活躍しており、そして、歌も一生懸命歌う姿が見え、嬉しく思いました。そ

して、私に何人もあいさつをしてくれたことも、ホッとした理由の一つです。小学校で学んだことを基礎に、そして、自分たち自身の力や独創的な考え方で新たな段階へと進んでいる卒業生たちの姿に安心したのです。そう言えば、今年度の保中のテーマは「創」。

「なるほど！」

私は、大きくうなずけたのです。

少年の夢

私は、松山空港の近くを通った時、よく飛行機の着陸を見て帰る時があります。豪快な飛行機のジェット音とともに、ドデカイ飛行機のお腹を頭上に見ることができるその場所は、私のお気に入りの場所の一つです。先日、飛行機が市街地上空から海へ向けて着陸態勢に入る北風の日だったので、ちょっと寄ってみました。

私が行ったときには、だれもその場所にはいませんでした。私は、ベストポジションを位置取り、着陸態勢の飛行機を数分待っていました。すると、しばらくして、親子連れの車が道路を挟んで向こう側に駐車しました。私の車がセンターに位置していましたので、その親子の車は少し離れて止まったのです。しばらくすると、小学校高学年生だろうと思われる男の子が降りてきました。男の子は、私がいるので、そのベストポジションに来ることを遠慮していました。そんな様子が伺えた私は、少年に声を掛けました。

「こんにちは。こっちへ来て一緒に見ませんか？」

どうするだろうと思っていましたが、男の子は走って近づいてきて、私にこう言いました。

「ありがとうございます。」

それから二人で真正面から近づいてくる飛行機を迎えました。そして、一瞬で二人の真上を飛び、遠ざかっていく飛行機を見ながらこう続けたのです。

「すごいねー。」

「はい。」

「よく見に来るの？」

「はい。」

「そうなんだ。ひょっとして、将来の夢はパイロットかな？」

「はい、そうです。」

「パイロットになれるように、しっかり勉強がんばってね。」

「はい、がんばります。あの…ありがとうございました！」

かけ足で親が待つ車へと走って行ったさわやかな少年。大空をめざす名も知らぬ少年の夢を、思わぬところでお裾分けしてもらったような気がして、嬉しく思いました。

夢はでっかく！すべての子どもたちの夢を応援したいと思います。

“ふるさと”を共に

学習発表会が近付いてきました。25日は、ものすごく寒い日になりそうです。どうぞ、ご観覧いただく皆様には、温かい格好でご来校いただきますよう御案内申し上げます。

さて、今年度の学習発表会は、全校合唱で3曲歌います。「翼をください」「パプリカ」そして、「ふるさと（嵐）」です。実は、この嵐が歌う「ふるさと」は、私が全校児童、先生方、そして、保護者や御来賓の皆さんと一緒に歌いたかった曲で、音楽主任の山崎先生にお願いして取り入れてもらいました。ピアノ伴奏は、子どもではなく、山崎先生にお願いをしました。そして、先生方も子どもたちと一緒に前で歌ってくださいとお願いをしています。ただ、この嵐が歌う「ふるさと」は、意外と知名度が低く、知らない方が多いのではないかという不安な声も聞こえています。

そこで、お願いです。どうか、You Tube等で、お子さんと一緒に音取りをして来ていただけないでしょうか。歌詞は、当日受付でお渡しいたしますので御安心ください。

学習発表会の最後を飾るこの歌を、気持ちを込めて、会場が一体となって歌いたいと思います。

“雨降る日があるから虹が出る 苦しみぬくから強くなる

進む道も夢の地図も すべては心の中にある

助け合える友との思い出を いつまでも大切にしたい

進む道も夢の地図も それは ふるさと “

ひとりひとりの心の中にある“ふるさと”を感じながら… 時を共にしたいと願います。